

葬儀社様用

ぎよくのうほうじゅ
玉納奉寿のご案内

大山祇命神示教会

式場の設営について

大山祇命神示教会

大山祇命神示教会では、一般の「葬儀」に当たる儀式を「玉納奉寿」と呼びます。この儀式は、「玉納奉寿の儀（葬儀・告別式）」「玉立の儀（出棺の儀式）」「火送りの儀（火葬の儀式）」「神玉の儀（納骨式）」の四つからなります。通夜には、「納魂の儀」と呼ぶ故人をしのぶ儀式を行う場合と、ご遺族のみで故人をしのぶ場合があります（火葬場から戻っての儀式はありません）。

「玉納奉寿」は、故人が安らかに心の世界に旅立てるように、そして故人の魂が幸福な運命の下、再び人としてこの世に生まれてくるのがかなうようにと、職員（伝導師）が神示教会の式次第に基づき執り行う、故人の人生の終日を飾る儀式です。

神道式の祭壇を使用して行いますが、儀式は神示教会の内容となります。従って、貴社でご用意くださる備品以外に、当方で準備させていただく備品もありますので、ご確認ください。

特にご留意いただきたいことは、式場と放送機材です。玉納奉寿では、納魂の儀（通夜）、玉納奉寿の儀（葬儀・告別式）ともに、一般の方も含めて全員が儀式に参列します。進行担当の伝導師が、マイクを通してご会神（参列）の皆さまに、式次第の内容を、その都度説明しながら儀式を進行します。そこで、式場に全員が入れるようにご配慮いただくとともに、伝導師の説明が聞こえるように、スピーカー等の配備をお願い申し上げます。

なお、以下の内容は、基本的な設営方法です。状況に合わせて適切な設営へと調整する場合もあり、その際は打合せをさせていただきますので、よろしく願いいたします。

目 次

1. 用語説明	3
2. 式場の設営	3
祭壇関係	3
拝礼設備関係	5
放送設備関係	5
教会が用意する物	5
準備の際にご留意いただきたいこと	6
看板、および礼状等に使用する名称	7
3. 前飾り・後飾り	8
前飾り（枕飾り）	8
後飾り	8
4. 開式前の準備	9
5. 玉納奉寿の式の流れ	9
玉納奉寿の式次第（葬儀業者用）	10
玉納奉寿確認事項	11～13

1. 用語説明

儀式に関わる、神示教会独自の用語を説明させていただきます。

ぎよくのうほうじゆ
玉納奉寿 ……葬儀全般の総称

のうこん
納魂の儀 ……通夜の儀式

玉納奉寿の儀 ……葬儀・告別式の意

ぎよくだつ
玉立の儀 ……出棺の儀式

ひおく
火送りの儀 ……火葬場での儀式

ほうてんようかんかざ
奉奠用神飾り ……参列者お一人お一人に、儀式中
に奉奠していただく、教会独自
の意匠の物

祭壇用神飾り ……神示教会独自のしつらえ

ぎよくほう ひつぎ
玉包 ……棺

しんし
信子 ……称号・戒名・法名

しんわく
信杵 ……霊璽・位牌

どうねん
道年 ……享年

じゆ
寿 ……没・歿

まえかざ
前飾り ……枕飾り（後飾りは一般と同様です）

でんどうし
伝導師 ……神職

しんしゆ
信主 ……喪主

しんか
神家 ……喪家

かいしん
会神 ……会葬

2. 式場の設営

式場の設営は貴社にお願いしますが、祭儀に関わる教会独自の設営部分は、この「式場の設営について」の内容に基づいて設営していただけますようお願いいたします（伝導師が持参する備品等は、地域によって多少異なる場合もあります）。

・祭壇関係（P4 参照）

祭壇

神道式の祭壇の指定はありません。貴社の祭壇をご準備ください。なお、祭壇最上段に伝導師が持参する「御神体」をお祭りしますので、宮（輿）は、取り外してください。

神幕屏風

伝導師が持参し、祭壇最上段に設置します。

神幕屏風は、横幅 170cm・高さ 45cm・奥行 25cm の大きさです。

御神体

祭壇最上段の中央（神幕屏風の前に）、当教会伝導師が持参し、お祭りします。

祭壇用神飾り（神に代わる物です）（一対）

伝導師が持参します。「御神体」の下段（無理な場合のみ同段）の両脇に設えますので、そのためのスペースを空けておいてください。祭壇用神飾りの幅は約 30 cm です。

【三方への神器の供え方】

塩・洗米・水・清酒（神器用供物台〈三方〉、右図参照）

三方に載せ、神に対して供える品目です。貴社でご準備の上、お供えください。

ご遺影

基本的には、祭壇の右側に設えます。花額等の装飾や、ご遺影の周囲を生花で飾ることは、神家（喪家）のご希望に合わせてしつらえていただいても結構です。

信杵（霊璽）

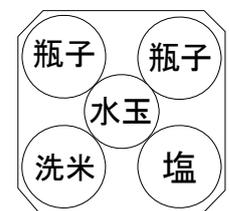
祭壇にご安置する大きな信杵と、ご家庭にお持ち帰りいただく家庭用信杵の 2 種類を当日伝導師が持参いたします。

ろうそく

燭台を使用し、祭壇のしつらえに合わせて、1～2 本ご用意ください（燭台にかがり火タイプでも可）。

お供物

神家（喪家）にご確認の上、葬儀社、または神家（喪家）でご準備の上、お供えください。品物は、故人の嗜好品を主に、一般的な野菜、果物、乾物、缶詰などを供えていただいても結構です。



三方の準備（右図参照）

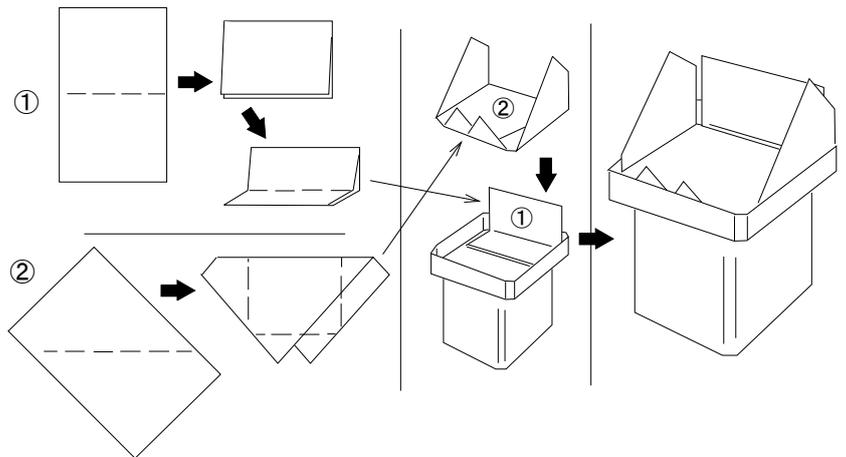
半紙を使用し、その上に神器、お供え物を飾ります。三方の数に指定はありません。

玉包（棺）・玉包覆い

玉包は、故人のお顔を向かって右側にし、祭壇の手前に安置します。玉包覆いは、玉包の中央に掛けます。玉包覆いは紙製のため、炉に入れる場合は、そのまま構いません。玉包覆いは、伝導師が持参いたしますので、設置の際には、ご協力をお願いいたします。

【三方に敷く半紙の折り方（一例）】

半紙を二枚（①・②）、それぞれ図のように点線に沿って折り、三方の上に敷きます。



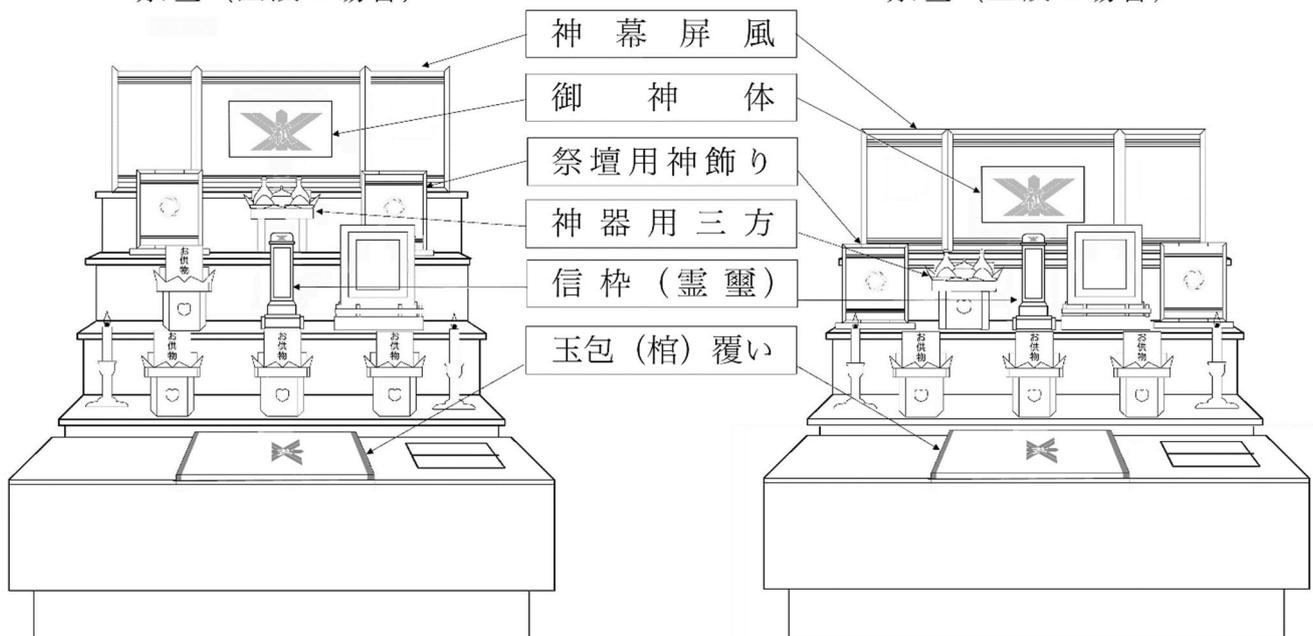
生花関係

祭壇の周辺には、神家（喪家）のご希望に合わせて生花等をお飾りいただいて結構です。生花の色にはこだわりません。なお、榊、および大神は必要ありません。

【祭壇のしつらえ】

祭壇（四段の場合）

祭壇（三段の場合）



- ・最上段には、「神幕屏風」と「御神体」をお祭りするため、他の物を置かないでください。なお、祭壇の後方から設置しますので、人が通れるスペースを空けておいてください。
- ・図は一例です。祭壇の段数、三方の数に指定はありません。
- ・御神体の下には信杵を置きます。遺影は、基本的には信杵の右側に配置しますが、遺影のお顔の向きに合わせて配置してください。
- ・玉包（棺）は、祭壇の手前に安置してください。

・ 拝礼設備関係

奉奠用神飾り (右図参照) (玉串の準備は必要ありません)

故人への拝礼の際、玉串(榊の小枝)に代わり、神飾りという当教会独自の物を会神者(参列者)に奉奠していただきます。神飾りは、伝導師が持参しますので、ご家族、一般を合わせたおおよその参列人数を教えてください。

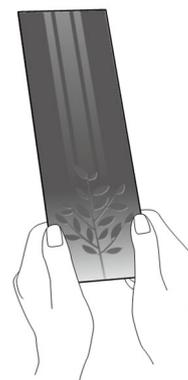
案(下図参照)

八足案、または机に白布を掛けた形で代用しても結構です。

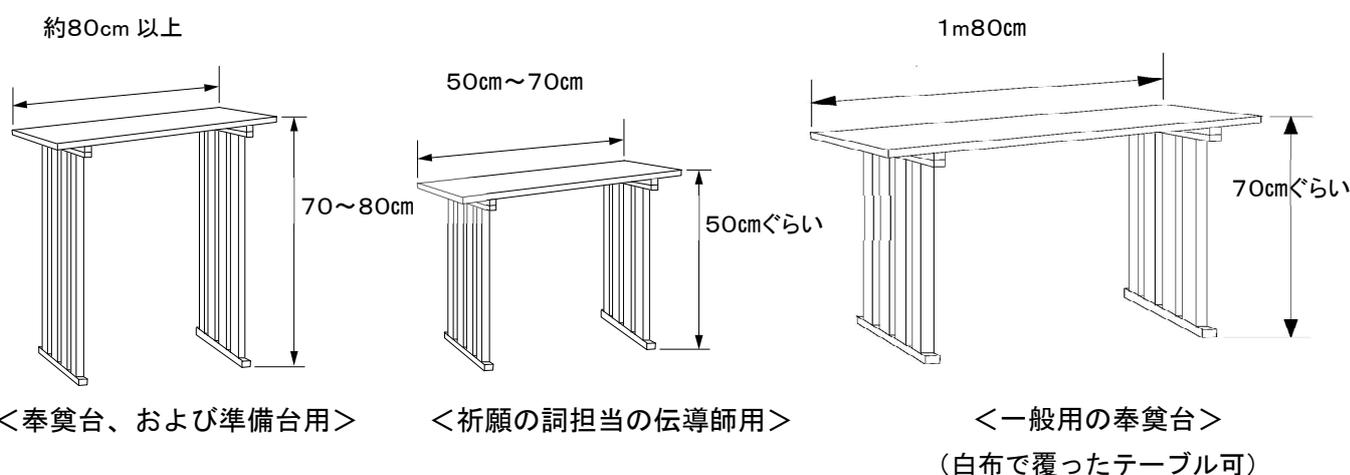
祭壇正面の祈願の詞担当の伝導師用に1台、神飾りの奉奠場所が1カ所の場合は、奉奠台1、準備台1台の合計3台となります。奉奠場所が2カ所の場合は、奉奠台、および準備台を2台ずつの、合計5台をご用意ください。座礼の場合は、座礼案をご用意ください。

併せて、祈願担当伝導師の控えの座横には、祝詞等を置くための補助台をご用意ください。

【奉奠用神飾り】



【八足案】



お盆

神飾りの奉奠は、案の上に直接置かず、神飾り奉奠案の上にお盆(一般的な献花用のお盆を使用しても構いません)などをしつらえて使用しますので、できれば四角い大きめのお盆を5枚以上と半紙をご用意ください。

椅子、および胡床

会場が立礼の場合、祈願担当伝導師用に胡床2脚、進行担当用に椅子1脚をご用意ください。また、座礼の場合は、座布団の用意をお願いします。

・ 放送設備関係

- ・ 祈願の詞を担当する伝導師用のマイク2本(卓上用1本、立ちスタンド用1本)、進行を担当する伝導師用マイク1本、贈る言葉用マイク1本の合計4本のマイクを用意してください。

- ・ スピーカー等の配備について

進行担当の伝導師が、口頭で説明しながら儀式を進行しますので、開式後は式場の内外を問わず、会神者(参列者)全員に伝導師の説明をお聞きいただきます。参列の皆さまに伝導師の説明が行き届くよう、アンプ、スピーカー等の配備をお願いします。なお、CDを持参し、儀式の中で音楽を流しますので、CDプレーヤーの準備をお願いします。

・ 教会が用意する物

「神幕屏風」「御神体」「御神体台」「祭壇用神飾り」「信杵」「玉包覆い」「CD」
 「奉奠用神飾り」(会神予定人数分)

・ 準備の際にご留意いただきたいこと

● 当教会では不要な物

神道式の「玉串(榊)」「神鏡」「霊璽」「幣帛」「真榊」「守り刀」「しめ縄」は必要ありません。

● 当儀式で行わないこと

- ・ 納棺は、ご家族、ご親族の皆さまで行っていただきますが、その際、「納棺の儀式」はありません。神家(喪家)と葬儀社との打合せで行ってください。
- ・ 一般の会神(会葬)礼状に添えている「清め塩」「神棚に白い紙を貼る(神棚封じ)」「仏壇を閉じる」などは、教会の教義としては不要です。ただし、神家(喪家)の意思に任せます。

死装束について

死装束は、教会としては平服を基本としております。

更衣室

伝導師が着替えをするための部屋を、ご手配ください。

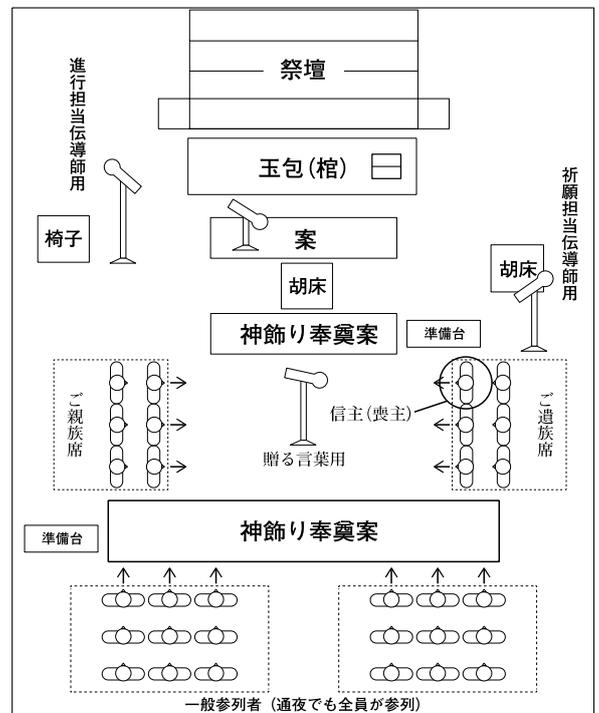
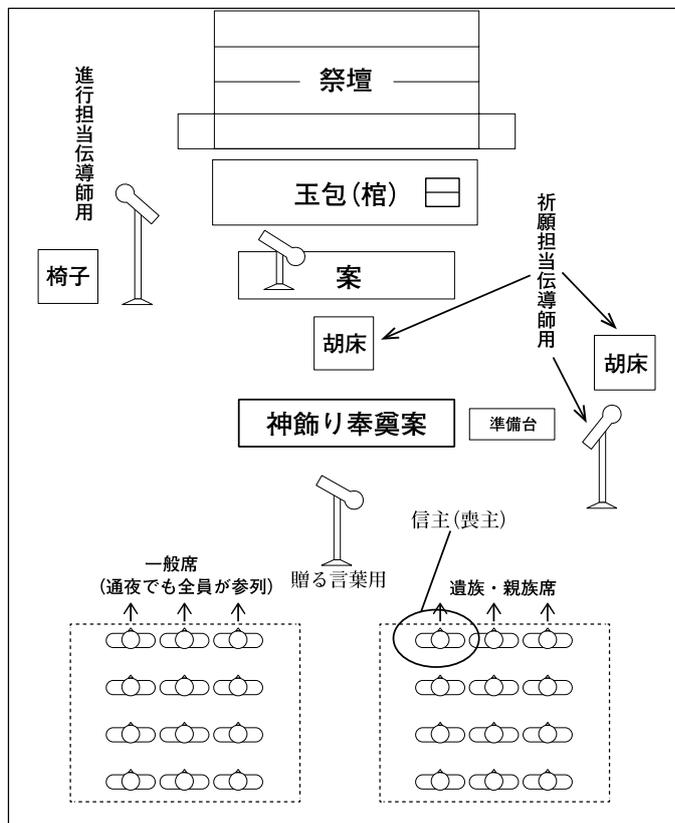
駐車場

伝導師が車で出向く場合のみ、普通車1台分のスペースの確保をお願いします。

なお、ご出棺の際は、霊柩車れいききゅうに続いて教会車両が出発いたしますので、駐車場のご配慮をお願いいたします。

【会場のしつらえの基本形(一カ所で神飾り奉奠)】

【会場のしつらえ(二カ所で神飾り奉奠)】



●看板、および礼状等に使用する名称

看板等の表記は、下記のように教会独自の名称でお願いします。

※既製品等に印刷されている物は、名称をあえて変更する必要はありません。

【看板の一例】

【会神（会葬）礼状の参考例】

故父○○○○○（○○歳）の玉納奉寿ぎよくのうほうじゆに際しましてはご多忙中にもかかわらずご会神かいしん（会葬）賜り かつ親しく神飾かんかざりりをご奉奠いただきまして 誠に有り難く 御礼申し上げます
早速お伺いの上ご挨拶申し上げるべきところ 略儀ながら書状をもって御礼申し述べさせていただきます
令和○年○月○日 納魂のうこんの儀（通夜）
○月○日 玉納奉寿の儀（葬儀・告別式）
○○市○○区○○町○丁目○番地
信主しんしゆ（喪主） ○ ○ ○ ○
外 親戚一同 ○ ○ ○ ○

故
○○○○
儀
式場

納魂のうこんの儀（通夜） ○月○日○時～

玉納奉寿ぎよくのうほうじゆの儀（葬儀・告別式） ○月○日○時～○時

※「のうこん」「ぎよくのうほうじゆ」のふりがなも入れてください。
※（ ）内の文字も併記してください。

●故人の年齢

神示教会の玉納奉寿において、故人の年齢は「どうねん道年」といい、1年に満たない年齢も1歳として数えますので、満年齢に1歳を加えた年齢となります。儀式においてお伝えする年齢ですので、確認をお願いいたします。

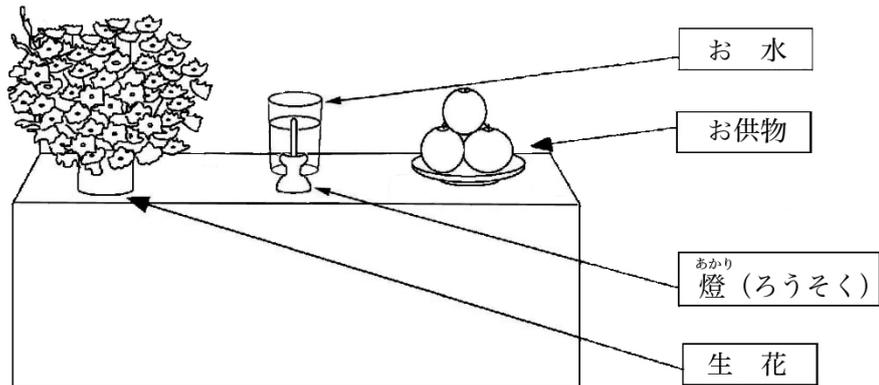
3. 前飾り・後飾り

前飾り、後飾りの祭壇は、故人に対しての拝礼の設備として、下記の内容の物と共に、供えるための台を神家（喪家）の方のご意向に合わせてご準備ください。

●前飾り（枕飾り）

故人に対し、拝礼しやすい場所に、「お供物（故人が生前大事にしていた物、または嗜好品など）」「生花」「ろうそく」「お水」などを供えます。

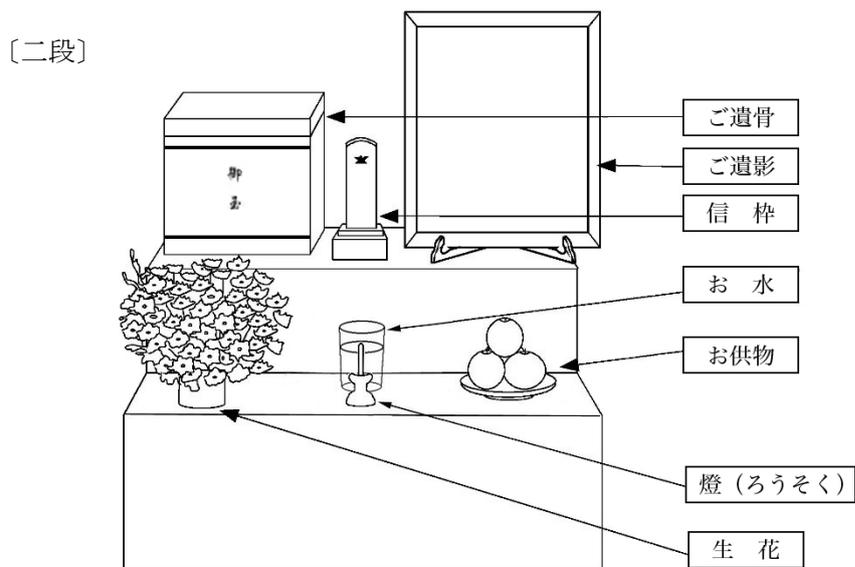
[前飾りのしつらえ例]



●後飾り

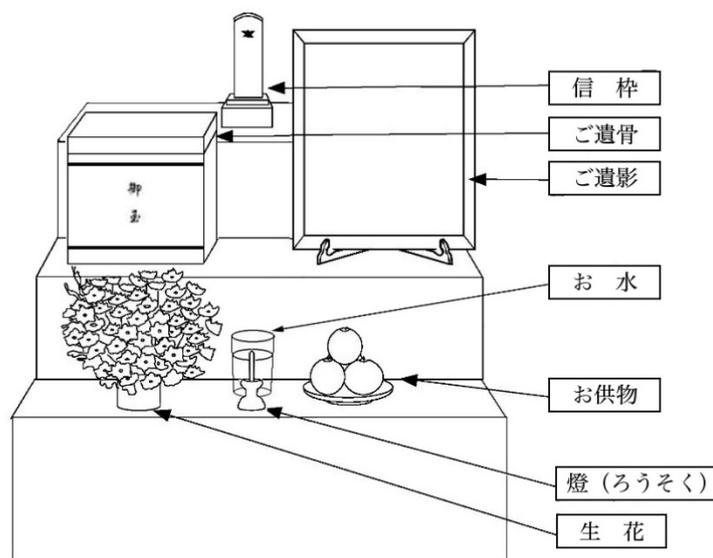
儀式後、納骨までの間、ご遺骨を安置するしつらえとして、前飾りと同様の趣旨の下に「後飾り」をしつらえます。すなわち、「ご遺骨」と共に「ご遺影」「信杵」「生花」「ろうそく」「お水」「お供物」などをしつらえます（鈴や鉦は不要です）。

[後飾りのしつらえ例]



※後飾りでは、信杵があれば上段中央に置き、遺影を右側にしつらえます。上段が遺影だけの場合は、中央に置きます。

〔三段〕



※後飾りでは、信柩があれば上段中央に置きます。信柩がない場合は、上段の中央に遺影を置きます。空いている所には供え物を置きます。

4. 開式前の準備

開式前に貴社にご協力いただきたい内容は、以下のとおりです。

- ・ 伝導師が会場に到着後、ご遺族に信柩（霊壺）をお渡しします。その後、式次第の説明をしますので、その時点で、貴社（担当者）もご同席ください。
- ・ 開式 20 分前から、当教会職員が持参したCDをBGMとして会場に流しますので、貴社（担当者）に操作をお願いします。
- ・ 祭壇の燈（ろうそく）は、開式前に点灯してください。
- ・ ご遺族、ご親族の皆さまへの着席のご案内は、貴社（担当者）でお願いいたします。

5. 玉納奉寿の式の流れ

玉納奉寿の各儀式の執行に当たっては、祈願の詞、および全体の進行は伝導師が担当し、貴社（担当者）には弔辞の進行、弔電の拝読を担当していただきます。また、儀式を滞りなく進めるために、貴社（担当者）には、設営面と、会神者（参列者）の誘導、および玉納奉寿の儀閉式後の玉立の儀（お花入れのお別れ）の進行をお願いいたします。

玉納奉寿 式次第

通夜の儀式

納魂の儀

- 一、開式
- 二、信子の拝受
- 三、祈願の詞
- 四、神示
- 五、神飾り奉奠
- 六、伝導師挨拶
- 七、閉式

葬儀・告別式

玉納奉寿の儀

- 一、開式
- 二、送魂の儀
 - (一) 信子の拝受
 - (二) 祈願の詞
 - (三) 奉生神歌
- 三、神礼の儀
 - (一) 故人に贈る言葉
 - (二) 神飾り奉奠
 - (三) 伝導師挨拶
 - (四) 親族代表挨拶
- 四、閉式
- 五、玉立の儀
 - (一) お別れ
 - (二) 玉立 (出棺)

火葬場での儀式

火送りの儀

- 一、開式
- 二、祈願の詞
- 三、閉式
- 四、収骨

納骨の儀式

神玉の儀 (納玉の儀)

納骨

出棺を先に行う場合

玉立の儀

- 一、開式
- 二、祈願の詞
- 三、お別れ
- 四、玉立 (出棺)
- 五、閉式

納骨の儀式を後日に行う場合

神玉の儀 (納玉の儀)

- 一、開式
- 二、祈願の詞
- 三、閉式

●●家 玉納奉寿確認事項

大変お忙しいところ恐縮ですが、至急確認の上、この用紙を含め3枚（P11～13）をファクシミリにて返信してください（045-730-1727）。

□にレ印を入れ、（ ）内に必要事項をご記入ください。

7～9は、各項目をご確認の上、□にレ印を入れてください。

1. 貴社担当者の方の氏名（ ）様

2. 会神（会葬）人数

身内・親族 _____人くらい

一般 _____人くらい

3. 日時の確認

・納棺 ……………（ ）日（ ）時（ ）分（伝導師の到着前に行って構いません）

・ご遺体の移動 ……………（ ）日（ ）時（ ）分

・納魂の儀（通夜） ……………（ ）日（ ）時（ ）分

場所（式場 [_____] 自宅）

ご遺族と伝導師の打合せ ……………（ ）日（ ）時ごろ

※伝導師からご遺族に、ご挨拶する時間を設けるため、2時間前に集合されるよう貴社からご案内ください。

・玉納奉寿の儀（葬儀・告別式） …（ ）日（ ）時（ ）分

場所（式場 [_____] 自宅）

・玉立（出棺） ……………（ ）日（ ）時（ ）分

・火送りの儀（火葬場の到着） ……（ ）日（ ）時（ ）分

4. 式場の所在地

誠に恐れ入りますが、詳細地図をファクシミリでご送付ください。

詳細地図がない場合は、下記にご記入ください。

式場の住所（ _____ ）

式場への連絡方法

①式場の電話番号（ _____ ）－（ _____ ）－（ _____ ）

②式場のFAX番号（ _____ ）－（ _____ ）－（ _____ ）

最寄りの駅、交通機関

（ _____ ）線（ _____ ）駅、（ _____ ）出口

式場まで（徒歩・電車・タクシー・迎車）（ _____ ）分

5. 火葬場

火葬場の名称（ ）

住所（ ）

①式場から火葬場までの所要時間（ ）分

火葬場への出棺に際しましては、霊柩車に続いて伝導師の教会車両を誘導してください。

②火葬場では10分ほどの儀式（火送りの儀）を行いますか。 可 不可

③収骨まで神家は 火葬場で待機
式場へ戻る

④火葬場から最寄りの駅までの所要時間

最寄りの駅（ ）駅まで、車で（ ）分

⑤火葬場において伝導師の着替えは可能ですか。

可 不可（火葬場以外の着替え場所）

6. 設営に入れる時刻の確認

貴社は、いつから設営に入りますか。

（ 日 時）ごろから

下記、7～9は、確認されましたら、項目ごとに、□にレ印をお願いします。

7. 祭壇回りの幕

葬儀会館の場合は、祭壇回りに幕を張る必要はありません。

8. 祭壇関係の確認

神幕屏風

神幕屏風と御神体を祭壇の最上段に祭りますので、そのためのスペースを空けておいてください。

祭壇用神飾り

祭壇には、祭壇用神飾りを教会から持参して供えますので、榊の準備はしないでください。

信杵（霊璽）

信杵は、教会から持参します。

供え物

①塩・洗米・水・清酒をご用意ください（P3「三方への神器の供え方」参照）。

②お供え物は、故人の好きだった食べ物を中心に用意し、鮮魚等は特に供えなくても差し支えありません。

お供え物は、神家、または貴社で用意していただき、祭壇にあらかじめお供えしておいてください。

③祭壇のお供え物は、儀式日二日間を通して取り替える必要はありません。

玉包（棺）

①玉包の位置は、祭壇の前をお願いします。

②玉包覆いを教会から持参し、玉包の中央に掛けます。貴社スタッフの方には、ご協力をお願いいたします。

9. その他

奉奠設備

- ①案は、神飾りを1カ所で奉奠する場合は、祈願担当伝導師の前に置く物も含めて、3台用意してください。
2カ所で奉奠する場合は、5台必要です。
- ②お盆は、神飾りを1カ所で奉奠する場合は、大きめの物を5枚用意してください。2カ所で奉奠する場合は、7枚必要です。半紙は20枚ほど用意してください。

放送設備

- ①教会から、CDを持参し、使用します。その際、そちらの会場にある機材を使用しますので、よろしくお願いいたします。
- ②祈願の詞を担当する伝導師用のマイク2本（卓上用1本、立ちスタンド用1本）、進行を担当する伝導師用マイク1本、贈る言葉用マイク1本の合計4本のマイクを用意してください。
（卓上スタンド1本、立ちスタンド3本必要）

生花関係

祭壇回りは、生花を使用して構いません。

奉奠用神飾り

- ①故人への拝礼には、教会独自の「神飾り」を使用します。
- ②玉串は必要ありません。

御玉入れ（必ず神家に確認して、どちらかにレ印を入れてください）

- ご遺骨をお納めする物として、教会特製の御玉入れを使用します。（ 5寸・ 7寸）
- ご遺骨をお納めする物として、一般の骨壺を使用します。

看板の書き方

極力、ファクシミリに載せてある見本どおりに表記してください。

会神（会葬）礼状

故人の年齢は、道年といい、満年齢に1歳を加え、道年 歳と表記してください。

司会

当教会の儀式は、全て教会職員が進行していきます。なお、貴社には、弔電の拝読を担当していただきます。

会食の同席

伝導師は、儀式中、ご遺族と共に動き、寄り添ってまいります。ですから、火葬中などに会食の場が設けられる場合は、要望に応じて同席させていただきます。

ご協力ありがとうございました。不明な点や質問などありましたなら、遠慮なくご連絡ください。